

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101335		
法人名	有限会社大垣ケアサービス		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	岐阜県大垣市林町8丁目69番地		
自己評価作成日	平成22年8月15日	評価結果市町村受理日	平成22年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101335&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあおぞらでは利用者の「尊厳」について職員全員で取り組んでいます。認知症高齢者とかかわりの中で本人からのサインや家族等からの情報をもとに利用者が「その人らしく」生活できるよう、また利用者の自己決定を第一とし柔軟な個別対応サービスの徹底に努めています。具体的にはグループホームという生活の場が利用者にとって常に自由な空間であるよう、わがままが言える場であるよう、個々のこれまでの生活のリズムやスタイルに合わせたサービスの提供ができるよう職員全員で取り組んでいます。そして、利用者の意思を引き出す姿勢を常にもった支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通量の多い道路から一歩入ったところにホームがある。細い道路に面しているが、玄関を入ると静かで落ち着いた雰囲気である。玄関・2階の出入り口も開放され、窓を開けると畑や住宅街が見えている。ホーム内では、利用者が思い思いに、自分の時間を楽しく過ごしている。以前、接骨院を開業し、知名度のある代表者は、グループホームの立ち上げにも理解者が多く、利用者も入居前からの馴染みの人達である。管理者は、「わがままが言える」ホームを目指し、入浴については、朝や夜間にも対応している。職員は、利用者の思いを引きだしながら、「尊厳」を大切に、「その人らしい」生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームあおぞらの理念を掲げ、意義や、社会的役割を確認し、話し合いにおいては具体的なケアについての統一を図っている。	地域の人々と協力関係を築きながら、利用者がゆとりのある生活が送れるよう「その人らしさを大切に」を理念としている。管理者、職員は、定例会議等で理念を確認し共有している。その人らしさを引き出しながら、ゆとりある暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加している。日常的に散歩や買い物等に出かけ挨拶を地域の人たちと挨拶を交わしたり、地域の人が慰問に来てくれている。	地域住民として、地域との協力関係を継続している。自治会の祭り、清掃活動等には必ず参加している。また、ホーム行事の準備には、大勢の住民が手伝いに訪れ、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者への認知症ケアの啓発に努めている。地域内の学校の実習の受け入れや訪問の受け入れをし、認知症とは一体どういうものなのかの簡単な講義を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では参加メンバーより意見、要望を率直に述べてもらえるような雰囲気で行い、意見交換も行っている。利用者家族や地域の代表の方ともグループホームのあり方について話し合いをしている。	2ヶ月に1回ホームで開催し、利用者、家族、自治会長、市高齢福祉課、地域包括支援センター、民生委員が参加している。ホームの取り組み状況の報告、参加者の気づきなど意見交換を行っている。自治会長から、町内の寄り合いで、ホームの説明をしてほしいとの要望があり実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行政の担当と話をするなど、運営上疑問に思うことや、ケアについての相談をするなど連携を深めている。	市とは、日常的にホームの実情を伝え、制度上に課題を相談している。市よりは、民生委員が直面する高齢者の現状や、虐待などで話を聞いている。市担当者とは、気楽に相談できる協力関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を話し合い、利用者が外出する雰囲気であれば声かけをし、施錠は夜間のみとしている。日中は玄関も扉もオープンで過ごしている。	身体拘束をしないケアを実践している。玄関・2階の出入り口は、夜間以外、施錠はされていない。出て行こうとする利用者には、声かけや見守りで、きめ細かに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、勉強会において、虐待の種類、起こる原因、防止について知識を身につけ、話し合い皆で虐待が起こらないように防止策を講じている。また、虐待を発見した場合の対応についても同じく話し合いを行っている。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに担当者からの説明やアドバイスをもらい、利用者の支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に丁寧に説明を行い同意を得ている。一方的な通達にならないように、納得した上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には運営推進会議や訪問時などに意見がしやすいような雰囲気づくりに配慮し、また専門用語が多くなならないような説明のし方、利用者家族等からの意見は会議などで話し合っている。	運営推進会議や訪問時に、家族から意見を聞いている。家族からは「利用者に役割を持たせてほしい」「専門用語が分からない」との意見がある。それらは、職員会議で話し合い、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、また会議での発言、個別での相談をも行いながら職員一人ひとりにあったスタイルで関係を構築している。	管理者は、会議や個別に面接を行い、意見を引き出している。職員からは、得意な分野に仕事固定しないことや、個々の事情による仕事の分担、夜勤対応等の改善を求める意見が出ている。意見や提案は、全体会議で検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確な給与体系、ある程度職員の都合に合わせた労働時間でシフトを決定し、無理なく勤務でき、努力や実績、功績に対し反映される給与体系のもと勤務できる条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、勉強会を始め、出きるだけ解りやすく勉強会を開催している。当ホームの内情に合わせた研修内容を取り入れ、実際当ではめた状況で話し合い、トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所への見学等を通じてケアの技術面を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時や相談の際には必ず面談を行い、心身の状態の把握に努めている。また家族とも面談を行い、当ホームにおいてどのような生活を望んでおられるかも含めて話し合い利用者本人、家族ともに安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談を行う際に、様々な背景の把握に努め、要望を聞き入れ、ホームと連携してサービスが提供されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供できるサービスにおいては、迅速に対応し外部のサービスが必要と思われる内容においては利用者、家族等と相談し柔軟なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩である」という考えを職員全員で共有しており、尊厳のある声かけ、徹底した敬語の使用を義務付けており、常に守られているかを会議時、及び日常的に確認しあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に家族の思いを受け止め、利用者の様子や事業所の方針を伝えている。また、家族の方と一緒に外出する機会も設け、当ホームと一緒にサービスの円滑な提供ができるよう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの生活が出来る限りそのまま続けられるよう、電話や訪問、外出の支援を行い、一人ひとりの生活習慣を大切に、つながりが継続されるよう支援している。	知人・友人・親戚などが面会に訪れている。馴染みの人が継続して出入りができ、気兼ねなく利用者に面会できるよう配慮している。馴染みの店での買い物、美容院、知人宅へ立ち寄るなど、家族と協力しながら支援している。	面会者は、簡単な受付簿で記録されている。家族に報告する際は、項目が分かり易い書式にすることが望ましい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮し、利用者が孤立しないよう支援している。また、皆で楽しめる場面作りを意図的におこない、職員が調整役となり支援している。また、口数が少ない利用者に対しては職員が付き添ってレク等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい環境でも、これまでのケアが継続できるように情報の提供をおこない、きめ細かな連携にこころがけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からのお話を聞き、又 本人にも相談しながら最良の暮らしを検討している。意思の疎通の困難な方であっても表情や態度により思いを理解しようと努めている。	家族からの情報に加え、日々の生活場面で、思いや意向を聞いて把握している。意思疎通が困難な人は、表情や態度から汲み取っている。わがままな気持ちも、そのまま受け入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を聞いたり、断片的な本人のお話より利用者の生活暦を考え、思いの理解に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の共同生活で役割への促し、又その時の表情、態度より、性格、性質、心身状態をつかみ 本人の心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や運営推進会議の度に認知症状の方への関わり方について話し合い、日常での関わり方についても相談している。また、現状に即した計画を立案しており、家族等との話し合い報告を行い、共有できるようにしている。	管理者を中心に、職員全員で話し合い、気づきやアイデアを介護計画に反映している。本人・家族、医師などの関係者と十分話し合い、定期および随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を記録し、特に利用者の思いを捉えた記録ができるよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や買い物など柔軟な支援に心がけ、対応している。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等より多くの人に参加するようになり、資源に関する情報交換や、ボランティアの方などによる活動、馴染みの店などに行くなど、地域の間や人の力を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院の他に診療科によっては適切に本人の希望の医療が受ける事ができるようにしている。また、引き続きの主治医の受診であったり、利用者ごとに納得の医療が受けられるよう柔軟に対応している。	協力医を「かかりつけ医」に変更した人と、これまでの、かかりつけ医を継続している人がある。協力医の往診は月に2回あり、全員が受診している。希望による他の診療科受診へは、家族の役割りとなっている。家族に都合がつかない場合は、職員が代行する等、柔軟に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による利用者の健康管理や医療関係との連携を持ち、助言・対応にあたっている。健康状態の把握に常に努め、職員全員が情報を共有し、適切な対応ができるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合には様子を伺い、その後の対応も含めて病院側との意見交換を行い、退院後もスムーズにホームでの生活に戻れるよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指定所に基づき、家族の役割、ホームの役割、病院側との連携も含め話し合い、ターミナルケアに取り組んでいる。	終末期については、入居時に、医療機関等との連携や体制について、ホームが行う看取りに関する方針を詳しく説明し、利用者・家族が理解の上、受諾証明書に記入してもらっている。また、職員に対してターミナルケアの研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が急変時の対応を学ぶ機会を設け、実際に訓練を行っている。また、いざという時のケースを想定し職員があわてず対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用など行っている。また、地域の住民に協力体制を依頼し協力してもらえるよう自治会も通して関係を築いている。	消防署の協力の下、年2回の火災等の避難訓練が行われている。利用者の身体的能力を考えた避難訓練が職員全体に徹底して行われている。また、近隣に協力を依頼し、12名の協力者が確保できている。	地域の協力者を含めた、避難訓練を、消防署や自治会の協力を得て実施されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア全般に本人の意思が反映されるように声かけや表情の確認をし、又言葉使いや態度が本人を傷つける事の無いよう配慮している。 会議等では尊厳について毎回話し合いが行われている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねたり、傷つけるような言葉づかいや、失礼な態度をとらないように配慮している。職員は、話し方や聞く態度に注意しながら、穏かな対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、本人が選びやすいよう働きかけている。難聴の方には筆談にて意思の疎通を図る等、自己決定につながる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設でのイベントやボランティア等の訪問は施設が予定を組んでいるが、参加の意思は原則本人の意向を尊重している。日常生活全般においても「わがまま」を言ってもらい、「自由」に生活してもらえるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容、服装、頭髪など身だしなみへの促しをし、他の利用者や職員に対して、良い意味での緊張感が保てるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑作業にて採れた農作物など使いながら、一人一人の好みにも配慮し準備、食事、片付けなど共同作業をしている。	事業所の畑で採れた季節の野菜を、手作りで調理し、職員も同じテーブルで、献立などを話題にしながら食事を楽しんでいる。利用者全員が箸を使い、中には多少不便な人もいるが、やさしく見守りながら箸で食べる喜びへと繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認をし、水分、栄養バランス等を体調をみながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	理解力の低下した利用者さんには精神的な配慮をしながら口腔ケアをしている。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心への配慮をしながらトイレでの排泄に努力している。アセスメントを行うなど、排泄パターンを読み取り、できる限りトイレでの排泄ができるように支援している。また定期的なトイレ誘導を行うなどの支援をしている。	排泄チェック表を使用し、トイレ誘導をしている。多少の失敗は、自尊心を傷つけない言葉で希望を与え、入居時より失敗が少なくなった。職員は、個々の排泄パターンを共有し、さりげなく誘導しながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事内容、水分補給量、服薬との関係に配慮し健全な状態の維持をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝風呂や夜間入浴など、本人のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴が出来るよう対応している。入浴中はそれらが楽しいものとなるよう昔話や歌や良い雰囲気になるようにしている。	利用者の希望を受入、朝や夜間の入浴にも対応している。また、入浴拒否の利用者に対しては、本人や家族より聞き取り、ホームでのさりげない会話の中で原因を見つけ、気持ちよく入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に日中は活動し夜間に睡眠がとれるよう支援しているが、本人の希望に応じお昼ねや、又ソファで寝たい方には体調を崩さないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、看護師が中心となって服薬の支援を行っている。また、一人ひとりに合った服薬が出来るよう変化の確認を行い、職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や得意なもの、又 趣味など活かしながら役割作り心掛け、意欲的な生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気候に配慮しながら、買い物や散歩、屋外での作業など促し、習慣に繋がるよう支援している。	買い物や散歩、畑仕事など、日常的に戸外に出かけている。同じ町内の利用者や地域の利用者も多いため、行事等にも詳しく、職員が同行し参加している。	

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等のときには本人が直接支払いできるよう支援している。また、家族とも相談した上で少額でも所持金をもつことによる認知症進行緩和を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話しやすい雰囲気作りや季節に応じたハガキをだす支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけやテーブルの配置など利用者と相談しながら快適な雰囲気が作られるよう配慮している。	季節の花を飾り、全員で作上げた作品で豊かさを感じることができる。廊下は広く、利用者がくつろげるテーブルが適所に配置されている。適度な照明と、カーテンの色が調和し、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの装飾やテーブルの配置など、利用者と相談しながら、またそれが快適なものとなるよう配慮している。また、季節を感じられるような装飾に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、仏壇などなじみの物を本人の居室に相談しながら配置し、安らげる自分の部屋作りが出来るよう支援しています。	居室には、備え付けのクローゼットにより、利用者の物が整理され、適度に空間が確保されている。使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、安らげるように配置している。窓には障子があり、和風の落ち着いた雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に配慮し居室の場所や設備を配置し、適宜、職員は居室での利用者の暮らしぶりを確認している。		